

令和2年度 横浜市立戸部小学校 の研究について

生活科
総合的な学習の時間

研究主題

夢をもち、
夢を実現する
子どもの育成
～子どもベースの
授業づくり～

横浜市立戸部小学校では、コロナ禍でも「夢をもち、夢を実現する子ども」の姿を追い求め、子どもの具体の姿を大切に研究を進めています。

- *目の前の子どもの姿をよく見取る
- *期待する子どもの姿をしっかり見通す

見取りと見通しのバランスや繋がりを意識して授業づくりに取り組んでいます。

今年度はこのような状況下のため研究発表会は行いません。
なお、本年度の研究内容や校内授業研究会の様子についてはホームページ「重点研究」内で紹介しています。研究内容や紀要等でご意見・ご質問等がございましたら次のアドレスまでご連絡ください。

ky-e-tobe@city.yokohama.jp

学級	単元名
4・5・6組 大西級	めざせ！こまスター☆
	身近な人に「自分たちの伝統的なこまを回す技を見てもらったり、作ったこまで遊んでもらったりしたい」という願いのもと、様々な伝統的なこまに親しみ、「長く回すこま」の条件を見つけた子どもたち。みんなに楽しんでもらえるこまを目指してこまを作ります。
1-1 吉川級	わくわく かぞくたんけん
	わくわくした気持ちで学校を探検すると、きらきらなものをたくさん見つけました。学校の周りの通学路もきらきらがいっぱい！いつも一緒にいる家族にはどんなきらきらがあるのかな。自分もきらきらになりたいなという思いで、家族のことを探検しています。
1-2 飯田級	ぐんぐんいきもの そだてたい
	学校の畑や校庭での虫探しを通して、子どもたちは学校にはいろいろな虫がいることに気付きました。「どんなおうちにしてあげたら良いのかな。」「虫さんが好きな食べ物をあげたいな。」と、虫の生育環境を考えながら大好きな虫を育てています。
2-1 加藤級	おたからハンター おもちゃをつくろう
	1年生の時の季節遊びから、2年生では身の回りにある物を使って遊びたいという思いが出てきました。家にある素材でどうやって遊べるか考え、素材がもつそれぞれのよさを見つけました。素材の特徴を使って、どんなおもちゃが作れるかを考えて取り組んでいます。
2-2 土田級	ゆめパワーウコッケイ
	「ウコッケイに健康で元気に過ごしてほしい」という思いで世話を続けています。餌や水やり、小屋の掃除等、基本的な世話ができるように、生育環境に目が向くようになりました。餌箱や止まり木等、ウコッケイにとってよりよい環境を考えています。
3-1 遠藤級	みんなで歌おう♪「戸部で飛べ！2020」
	先輩たちが商店街のイベントで手掛けた歌が未完成であることを知りました。「この歌の続きを作って、歌を聞いたまちの人に元気になってもらいたい」「戸部のまちのよいところをたくさん盛り込んだ歌にしたい」と、戸部のまちの本格調査に乗り出しました。
3-2 稲葉級	野毛山動物調査隊
	「野毛山動物園を調べて、分かったことや魅力を伝えたい。」という思いで活動しています。自分の調べたい動物の個性や行動を動物園に何度も行って調べる活動を通して、それぞれの動物の魅力や飼育員さんのすごさを感じています。
4-1 前田級	消しゴムはんこ
	「消しゴムはんこで人々に喜んでもらいたい」という思いで活動しています。消しゴムはんこを実際に作ることで、その魅力に気付き、夢中で作ったりまちの人のために何かできないかと考えたりしています。
4-2 山本麻級	思いをこめた和紙をつくろう!!
	「10歳の特別な年の今の自分たちの思いをこめた和紙をつくりたい」という思いで活動しています。自分たちで調べたり和紙づくり職人のKさんと関わったりして、思いをこめた和紙にしようとしています。
5-1 武藤級	ブラリ戸部動画
	「当たり前毎日通る道や行く場所や物に、様々な歴史や意味がある。ただ歩いているだけでは分からないまちの魅力・歴史を調べて、みんなが楽しみながらまちのことを知ることができる動画を作りたい！」という思いをもち、協力して動画を作っています。
5-2 山口級	音で戦う ゴールボール
	「ゴールボールを通して、障害のある人もない人も笑顔にしたい」という思いで活動しています。ゴールボールを繰り返し体験することで、ゴールボールの競技としての楽しさを味わったり目が見えない状況について考えたりしています。
6-1 小塚級	とべつとスタンプ
	「6年間世話になった戸部のまちへの感謝の気持ちを伝えたい」という思いを伝えるために、このご時世だからこそ、対面でなくてもコミュニケーションできるツールを使って、試行錯誤しながらLINEスタンプを作成しています。
6-2 川合級	62とベスマボディパ
	「ボディパーカッションを通して、戸部のまちを明るく笑顔にしたい」という思いで、自分たちも聴いている人も楽しむことができるボディパーカッションをめざして活動しています。全身を使って音楽を創り出す楽しさや人と関わる楽しさを感じています。